

平成30年度 第1回市川市史編さん委員会

日 時:平成30年7月2日(月)
18時00分～20時00分
場 所:全日警ホール 2階 第3会議室

会議次第

議 題 1. 平成30年度の事業内容について
 2. 通史編について（専門部会報告）
 3. 市川市史全巻における統一事項について

報 告 1. 第3巻、第4巻の目次構成
 2. 各巻の調査の進捗について（1巻・2巻・5巻）

連絡事項

閉 会

配布資料

- 資料1 平成30年度の事業内容について
- 資料2 通史編専門部会検討内容について
- 資料3 市川市史全巻における統一事項について

回覧資料

- ・表紙案（第3巻、第4巻）
- ・本文レイアウト案（第3巻、第6巻）
- ・東見本

平成 30 年度の事業内容について

1. 市川市史各巻の刊行について

刊 行 計 画

○ 発行年

△ 調査報告書(資料集)等発行年

平成30.6現在

年度	75周年				80周年				85周年				2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33
	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29							
歴史編	第1巻 「地形と環境」					△					調査	執筆・編集	編集・刊行 ○			
	第2巻 「ムラとマチ」								▲		調査	調査	執筆・編集	編集・刊行 ○		
	第3巻 「まつりごとの展開」			▲		▲	△				執筆・編集・ 刊行 ○					
	第4巻 「変貌する市川市域」										執筆・編集・ 刊行 ○					
民俗編	第5巻 「台地・町・海辺の暮らしと伝承」										▲	調査・執筆	△(民家) 執筆・編集・ 刊行○			
自然編	第6巻 「都市化と生きもの」								●							
通史編	第7巻 「通史編(仮称)」										調査	調査	執筆	執筆・編集 刊行○		
写真図録「この街に生きる、暮らす」									●							
「市史研究いちかわ」		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○		

<平成 30 年度>

- 第1巻、第2巻 : 調査
- 第3巻、第4巻 : 執筆、編集、刊行(10月、3月)
- 第5巻 : 調査、目次構成・執筆候補者の確定、執筆依頼
- 第7巻 : 構成内容・執筆者等の検討、調査

2. 付帯事業について

(1) 講演会の開催

「市川市史第3巻 刊行記念講演会(仮称)」

日にち:平成31年2月3日、4日あたりで検討中

会 場:全日警ホール(定員280名程度)

講 師:吉村編集委員、湯浅編集委員、村田編集委員(予定)

(2) 調査報告書類の刊行

『市史研究いちかわ』第10号

一般投稿原稿の締切:平成30年9月28日(金)

刊行:平成31年3月下旬

(3) 刊行物払出し状況(平成30年3月末現在)

刊行物名	制作部数	払出冊数	在庫数
「市史研究いちかわ」創刊号	1000部	763部	237部
「市史研究いちかわ」2号	1000部	660部	340部
「市史研究いちかわ」3号	1000部	667部	333部
「市史研究いちかわ」4号	1000部	579部	421部
「市史研究いちかわ」5号	1000部	626部	374部
「市史研究いちかわ」6号	1000部	608部	392部
「市史研究いちかわ」7号	1000部	686部	314部
「市史研究いちかわ」8号	1000部	557部	443部
「市史研究いちかわ」9号	800部	504部	296部
下総国戸籍(写真・釈文・解説編)	1000部	784部	216部
下総国戸籍(遺跡編)	1000部	566部	434部
市川のオビシヤとオビシヤ文書	1000部	454部	546部
幕末期の御用留	1000部	320部	680部
この街に生きる、暮らす	4500部	3664部	836部
自然編 都市化と生きもの	1500部	760部	740部

(4) 刊行物の売払い方法について

文学ミュージアムにて銀行口座振込による売払い

(平成30年10月末より開始予定)

通史編専門部会検討内容について（報告）

＜検討過程＞

- (1) 第 1 回通史編専門部会
平成 29 年 10 月 13 日（金）
出席者：吉村委員、石川委員、村田委員、竹内委員、朽木委員、事務局
- (2) 第 1 回通史編ワーキンググループ
平成 30 年 1 月 12 日（金）
出席者：吉村委員、竹内委員、朽木委員、事務局
- (3) 第 2 回通史編ワーキンググループ
平成 30 年 3 月 16 日（金）
出席者：吉村委員、石川委員、朽木委員、事務局

＜方針＞

- (1) 民衆や市民の視点からの通史を目指す。
- (2) 本文と付録年表の構成を基本とするが、他の形式の可能性も検討していく。
- (3) 平成 30 年度から、年表作成のため近世・近現代の下作業を開始する。
- (4) 各時代により市川市域の在り方が異なるため、本文での叙述を工夫する。
- (5) 時代区分は、読者に配慮して中学校・高校の教科書に準拠する。
- (6) 本編では少ない市内の各地域の特色や、文化史的な記載を取り入れる。

＜編さん体制＞

- (1) 通史編の編さん体制は、巻担当者を吉村委員（正）、朽木委員（副）とする。
- (2) 各時代の執筆者はワーキンググループの編さん委員を含め 1～3 名とする。編さん委員は監修者として、章および全体の統一性を保つ。執筆者は、今後検討する。

＜構成＞

- (1) 通史と巻末に通史を読む際の補助的なレベルの年表とする。本文 400 頁に対しおおむね 10～20%を年表に充てる。
- (2) 各時代のページ割の目安（コラムを含む）は以下のとおりである。加えて、必要に応じて「文化・民俗」のコラムを割り振る。
原始社会：10% 古代：20% 中世：15% 近世：20%
近現代：30% 文化・民俗（コラム）：5%

市川市史全巻における統一事項について

(1) 表紙

- ・背表紙のライン
- ・書体
- ・表紙タイトルのデザイン

(2) 内容レイアウト

- ・章扉の内容

(3) 本文用紙 (報告)

- ・上質紙 70 kg